

「ヤコブの夢」

2021年03月24日

夢を見た。すると、先端が天にまで達する階段が地に据えられていて、神の使いたちが昇り降りしていた。すると、主がそばに立って言われた。「私は主、あなたの祖父アブラハムの神、イサクの神である。今あなたが身を横たえているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。」(創世記 28 章 12 節～13 節) ヤコブは眠りから覚めて言った。「本当に、主がこの場所におられるのに、私はそれを知らなかった。」そして怖くなって言った。「この場所は何と恐ろしい所だろう。ここはまさに、神の家ではないか。ここは天の門だ。」(創世記 28 章 16 節～17 節)

父イサクから祝福を奪ったヤコブは、殺意を抱いている兄エサウから逃れるために、父母に見送られ、母の故郷ハランに向かって、ベエル・シェバから旅立った。ヤコブにとっては、両親に守られた平穏な生活から独り立ちした、自立への旅立ちであった。ベエル・シェバからハランまでは 600 km を超す道のりで、青年の一人旅は容易ではない。部族間を通り抜ける時、他部族から偵察に来た斥候と疑われ、また、野獣や盗賊に襲われる命の危険に晒される。不安と恐怖がヤコブの胸を去来しただろう。

ベエル・シェバから、ハランを目指して約 90 km 進んだ。まだカナン地である。日が沈んで、石を枕にして身を横たえ、一夜を過ごすことにした。宿に泊まるより、野宿の方が安全だと思ったのである。経験したことのない孤独の中で、眠りについた。すると、夢を見た。「先端が天にまで達する階段が地に据えられていて、神の使いたちが昇り降りしていた。すると、主がそばに立って言われた。『私は主、あなたの祖父アブラハムの神、イサクの神である。今あなたが身を横たえているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。』」天から地まで続いている階段があり、天使たちが、その階段を昇り降りしていた。神がノアと契約を結んだ時、ノアが雲の中に置かれた虹を見たように、ヤコブは天と地を繋ぐ階段を見たのである。そして、神は傍に立って、私はアブラハム、イサクの神で、この土地をあなたの子孫に与えると言われる。また、あなたの子孫は地の塵のようになって、東西南北に広がる。地上の全ての氏族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。アブラハムに言われた言葉と同じである。更に、私はあなたと共にいて、どこにいてもあなたを守り、この土地に連れ戻す。私は約束を果たすまで、決して、あなたを見捨てない。何と力強い言葉であろうか。「インマヌエル(神は私たちと共におられる)」の宣言を聞いたのである。人は行き詰まりの時、救いの神と出会う。ヤコブは夢から覚めて、「本当に、主がこの場所におられるのに、私はそれを知らなかった」と言い、荒れ野で、神を体験したのである。彼は、「この場所はなんと恐ろしい所だろう。ここはまさに、神の家ではないか。ここは天の門だ」と告白した。神体験は畏怖であるが、その畏れは神が共にいてくださる歓喜である。だから、神の家、天の門と告白している。ヤコブは起きて、枕にした石を取り、柱として据え、油を注いだ。そして、ルズと言われていたこの場所をベテルと名付けた。ベテルは「神の家」という意味である。彼は誓いを立てて、「神が私と共におられ、私の行く道を守り、食べる物、着る物を与えてくださり、私が無事、父の家に帰ることができ、そして主が私の神となられるなら、その時、柱として私が据えたこの石は神の家となるでしょう」と言った。彼はベテルで初めて神に礼拝を捧げた。しかし、私をお守りくださるなら、十分の一を献げると、条件を付けている。